

第48回全難言協全国大会三重大会を終えて

三重大会実行委員長 鵜飼 節夫（津市立修成小学校長）

三重大会事務局長 辻 大輔（津市立修成小学校教諭）

第48回全難言協全国大会三重大会は、「三重で“つながる”」の大会テーマのもと、令和元年8月1日（木）2日（金）の2日間にわたり、津市「三重県総合文化センター」で開催しました。全国各地より484名（一般参加者373名、来賓・講師・実行委員111名）のご参加をいただき、大会を通して先進的な事例及び日々の教育実践等に基づいた数々の研究成果を共有することができました。

ご参加いただきました皆様をはじめ、ご来賓の方々、全難言協本部事務局等関係各位に改めて感謝申し上げます。

初日は、本三重大会長の三重大学郷右近歩先生から「通級指導の可能性について」と題しての基調提案（講演）がありました。今後、発達障がいのある児童生徒数が増え、ニーズがより高まっていく中での他通級との連携の必要性について話していただきました。

また、記念講演では東京大学先端科学技術研究センター中邑賢龍先生より「AI・ロボット時代の子供の能力と教育」と題してご講演をいただき、多様化を認めない社会の課題について、便利なことや新しい技術を取り入れた教育を行っていくことの意義・意味について学ぶことができました。

第2日目は、発音、ことばの育ち、吃音、きこえ、発達障がい（学習面、行動面）、つながり、高等学校という8つのキーワードに基づいた分科会に分かれ、実践・研究発表、研究討議、コーディネーターの先生方による講演会等を実施しました。各会場において、専門性ある事例内容を通して多くの成果を確認する機会をご提供できたのではないかと考えております。その一方で、アンケート等でいくつかご意見も頂戴しております。これらの成果と課題は、次期「岡山大会」に繋いでいきたいと考えています。

実は今回の大会では、もう1つの裏テーマ「ICTで“つながる”」がありました。一般財団法人日本視聴覚教育協会様のコーディネートのもと、合計22社からブース出展協賛をいただき、「きこえ」や「ことば」、「発達」に課題のある子どもたちにとっての有効な指導教材、ICT機器等の情報を得ることができました。大会最後に開催した「大抽選会」の盛況ぶりは圧巻でした。

最後になりますが、たくさんの方々から「三重に来てよかったです」というお言葉をいただけたことが何よりの喜びであり、微力ながら運営に努めた三重県事務局員一同にとりましても嬉しく思いました。本大会が今後の全難言協の発展に少しでもお役に立てたのであれば幸いです。本当にありがとうございました。

